平成 29 年 1 月 5 日発行　毎月 1 回 5 日発行　オイスカ通巻 641 号　昭和 42 年 12 月 27 日　第三種郵便物認可　別紙

公益財団法人
オイスカ FURUSATO！１月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

新技能実習生入所

沖縄で技能実習として入っていた２名のインドネシア実習生が今回、実習先との諸事情で香川県の「(有)さぬき新栄」という農園に実習先変更しました。残り１年と３か月程度ですが、香川の地で農業に励んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ナジル（23 歳）

インドネシア出身
好きな食べ物：カレー
趣味：チェス
行ってみたいところ：大阪
好きな日本語：いいね～

エピン（23 歳）

インドネシア出身
好きな食べ物：寿司
趣味：サッカー
行ってみたいところ：東京
好きな日本語:ありがとうございます。

カンボジア訪問記

12月２日から６日までカンボジアを訪問しました。オイスカでは１９７０年代に同国から研修生を受入れていましたが、同国の内戦はじめ政情不安等により30年余り中断。２００５年から再開して研修生を受入れています。四国研修センターでは近年、２名の研修生を受入れましたが、彼女達に会う機会がありました。また、「子供の森」計画支援校を訪問して子どもたちと一緒に植林や交流を行いましたが、日本人駐在員がいない中（隣国のタイから四国研修センター出身の春日駐在代表が出張ベースで指導中）、２０１０年からスタートした成果を確認できました。研修生ＯＢ・ＯＧの活躍を願っています。（池田）

2010 年に植えた樹の下で四国センターOG 二名
キム(左：2012 年帰国)、
ネト(右：2014 年帰国)。

国際ソロプチミスト丸亀の皆さんと

毎年、年の暮れが近づいて来る頃、国際ソロプチミスト丸亀の皆様と交流をさせていただいています。今年は11月27日のチャリティーバザーに研修生が参加、また12月７日は「国際交流の夕べ」に招待して頂きました。ホテルでの食事会に研修生ははじめ緊張していましたが、出席された皆様から温かい言葉をかけていただき、帰国を前に楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。（永山）

新年の挨拶

四国支部会長・石井　淑雄

新年明けましておめでとうございます。皆様には良き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、四国支部は本年４月、創立25周年を迎えます。これもひとえに先人のご苦労の賜であり、会員一同感謝に耐えません。５年前の20周年を契機に四国支部の総会であります「幹事会」は４月に西讃で開催、「四国のつどい」は10月に高松で開催を決定し実施して参りました。合わせて著名人をお迎えしての講演会を開催し、実に10名の講師にご来県いただいた次第であります。この２つの大会、８つの推進協議会の総会はオイスカ精神の高揚に資する場であり、会員と関係者の認識と情報を共有する機会でもありました。創立以来会員のたゆまぬご努力で地域に密着したオイスカ活動が浸透し、その成果の一つとして会員数も８３０名になり、目標とする１、０００名の背中が見えて参りました。

本年を歴史に学び、先人に感謝し、会員一同心を新たに飛躍元年にいたしたく存じます。又、四国研修センターは支部にとりまして心の支えであります。共に手を携えて多様な事案にしなやかにかつ積極的にチャレンジして参ります。引き続き会員関係者各位のご理解とご支援をお願い申し上げまして、新年の挨拶といたします。

愛媛県支部会長　宮嶋　嘉則

皇紀二六七七年、明けましておめでとうございます。皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、オイスカ海外拠点および各ＯＢ会の協力を仰ぎ、新プロジェクトを立ち上げ、マレーシア、フィリピン等、５か国を訪問するチャンスに恵まれました。各地域のオイスカメンバーの方々とお国事情、彼らが抱える悩み、将来の夢等々、様々な意見を交換し大変有意義な時間を共有することができました。時代が大きく変容している今、オイスカ全体そしてサポーターとしての我々自身が新しい「しくみ」を創り上げていかなくてはならないと強く思いました。

さて、愛媛県支部では、本年も忽那山の植林を中心にした活動を展開して参ります。標高49ｍの小山ですが、なかなかタフな山で、山全体を桜の花で満開にするためには支部メンバー一同、気合を入れ直し、頑張っていかなければと思っております。松山にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

愛媛県支部メンバー一同、オイスカ発展のため力を注いでいく所存でおりますので、引き続き、ご指導、ご支援の程、宜しくお願いいたします。

四国研修センター所長　萬代　保男

新年あけましておめでとうございます。

昨年は四国研修センターの人材育成活動に多大なご支援ご協力を賜りました。心より厚くお礼申し上げます。

四国研修センターが香南町に開所したのが昭和43年、その後現在の綾川町に移転したのが昭和56年ですので来年はいよいよセンター開設50周年を迎えます。これまで四国で受け入れた研修生は約８００名を数え、母国ではその多くがオイスカの基本理念の物質と精神が調和した繁栄を築くため、持続可能な国づくりの第一線で活躍しています。昨年はそうした彼らの幾人かが久しぶりに四国センターを訪れ研修生を激励してくれました。研修生らはそうした先輩たちの励ましを胸に、昨年の暮れに無事研修を終えそれぞれの国に帰りました。今後先輩たちと力を合わせて共に活躍してくれることを期待しております。本年も引き続き、ご指導・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

１月のイベント予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
5 日	木	仕事始め	四国研修センター	四国研修センター
6 日	金	神社参拝	四国研修センター	田村神社、冠纓神社
12 日	木	四国支部常任幹事会	四国支部	四国支部
21・22 日	土・日	四国三大学生 80 名宿泊	香川大学SUIJI推進室	四国研修センター
26 日	木	海岸林再生プロジェクト活動報告会	高松推進協議会	オークラホテル高松
27 日	金	海岸林再生プロジェクト活動報告会	徳島県推進協議会	阿波観光ホテル
28 日	土	海岸林再生プロジェクト活動報告会	綾川推進協議会	四国研修センター

「FURUSATO！」１月号　発行
公益財団法人オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

OISCA × VALLE BOOKS
古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト

グレンダコーナー!! ～さよならまた会う日まで～

さあ。時間とても早かったですね。。。もう1年10か月の期間が終わりました。２０１５年２月に日本に来たときは日本語がぜんぜんわからなくて難しかったです。私は家政研修生だから先にキッチンの道具や野菜、魚の名前を覚えなければいけませんでした。先輩がいなかったから、頑張って自分で覚えました。四国センターでいろんなメニューがあり、たくさんの料理を作ることができます。今はマレーシア料理より日本料理のほうが上手に作れるようになりました！その中で１番大好きな料理は茶わんむしです。修了式で食べた方、いかがでしたか？？

料理の事だけではなく、農業と養鶏も学びました。見学にも行って新しいやりかた、新しい知識をもらう事ができました。日本にいる間は徳島でみその農園という所にホームステーをしました。みその農園では養鶏をしながら食品加工もやっています。１週間だけでしたがいろんな事を勉強して、国へ帰ってからの活動のアイディアをもらいました。

この２年の研修中、楽しいこと、辛いこともたくさんありましたが、四国センターやオイスカメンバーの皆様のサポートは、いつもわたしの力になりました。本当にありがとうございました。わたしもみんなを元気にできるよう笑顔で頑張ります！

帰国後の目標

帰国後は自分の村がもっと元気になるように、村の女性部と協力して活動を行います。日本で学んだ料理や加工技術を女性部に教え、バザーで販売します。収入は村人が集まる地域の教会へ寄付します。また、みんなをまとめたり、グループの運営のしかたも、四国センターや日本で学んだ経験を活かして取り組んでいきたいです。オイスカテノム研修センター（マレーシア・サバ）の研修生や村の人と協力して、元気なセンターと村をつくります。

目標

みその農園では作り方・材料にこだわったプリンを教えてもらいました。そんなふうにおいしいものをサバでも作ります！

調理

切り方、調理法、味付け、食材の管理、栄養、会計、…。基本から応用まで、毎日の実習でしっかり身につけました。

日本語の授業

少しずつ勉強してたくさん話しました！漢字も少し読めるようになりましたよ！

ミャンマー報告

昨年の11月21日、ミャンマーのDOA―OISCA農林業研修センター20周年記念式典が開催されましたので出席して参りました。現在センターでは四国で学んだ多くの研修生OB・OGがスタッフとして活躍しています。その中のひとり、一昨年末に帰国したWAI WAI（ウィイウィイ）は後輩の指導の傍ら、木附駐在代表が近隣の村々の実態調査を行う際は必ず同行して日本語と現地語を介してのアンケート調査の補助や通訳なども行っています。また、今回の20周年式典には現地政府関係者や日本からの訪問団、更に村人たち総勢約９００名が出席しましたが、皆を前に本人が得意とする民族舞踊を華麗に披露し大きな拍手を浴びていました。今後の研修センターを担っていく優秀なスタッフのひとりとして大いに期待されています。（萬代）

右から２番目ウィイ、３番目ミン、４番目タン

皆様、大変お世話になりました！

修了式

12月10日、平成28年オイスカ研修生修了式が行われ、5名の研修生が約2年、または10ヵ月に渡る研修を修了しました。修了生代表でミリ（フィジー）がスピーチし、日本での様々な経験や感謝の意を述べました。また、成果発表としてアンギ（インドネシア）が約10ヵ月間の研修と帰国後の計画について堂々と発表しました。

歓送会ではお世話になった方々と最後のひと時を過ごし、笑い泣きながら日本での思い出と帰国後について語り合いました。

この日を無事に迎えることができたのも、皆様の支えがあってのことです。本当にありがとうございました。今後とも温かいご指導とご声援、どうぞよろしくお願い致します。（永山）

帰国後の目標

約２年の家政研修、10カ月の地域開発研修を無事修了した研修生達。まずは各研修センターでの日本での研修報告とボランティア活動を行います。それが終わるとさらにセンターで指導員を目指す者、村に帰りプロジェクトをおこす者と道は様々です。日本で学んだ「頑張る心」でチャレンジし、夢の実現へむけ一歩ずつ進んでいきます！

ミリ（フィジー）

日本で学んだ有機野菜作りをオイスカフィジー研修センターと自分の村で実践します。女性が自立できるように、農業のノウハウを指導し、小さい規模でもできる体にいいおいしい野菜作りを普及していきます。

アンギ（インドネシア）

オイスカカランガニヤル研修センター（インドネシア・中部ジャワ）で食品加工と調理の研修科目をつくります。まだ食べられても売ることができない野菜や果物、村の特産品を利用して、商品開発にも取り組みます。

オイスカテノム研修センター（マレーシア・サバ）と自分の村で、日本で学んだ農業技術を伝えます。村では需要の高い生姜栽培と養鶏に挑戦します。機械はありませんが、周りにあるものを活用した経済的で持続的な農業を確立します。

スタンリー（マレーシア）

新しくできたオイスカモンゴルユースセンターで農業をします。大きな課題は夏の短さと冬の寒さ。日本とモンゴルの栽培方法を合わせておいしさはそのまま収量を上げる方法を見つけます。またハウスを造って寒くても野菜を作れるようにします。

トウガ（モンゴル）